

地域の教育力を育む施設としての
公民館の役割（あるべき姿）
（答申）（案）

平成 31 年 3 月

香川公民館運営審議会

目次

1、はじめに	- 2 -
1-1 諮問内容－「検討を要する事項」	- 2 -
1-2 テーマ選定の背景	- 2 -
1-3 香川公民館を取り巻く現状と課題	- 2 -
1-4 答申作成のプロセス	- 3 -
1-5 答申書の概要	- 4 -
2、公民館と子どもを取り巻く現状と問題点	- 5 -
2-1 公民館運営審議委員からの主な意見（議事録からの抜粋）	- 5 -
2-2 「りよこんだより」の「子育て世代・シニア世代のつぶやき」への投稿意見	- 10 -
2-3 公民館事業でのアンケート：「夏休み自由広場」、その他の事業でのニーズの把握	- 12 -
3、地域の教育力を向上させるために今後の公民館のあり方（提言）	- 14 -
3-1 子ども（未就学児～小学生）の居場所	- 14 -
3-2 子ども（未就学児～小学生）と地域の大人とのかかわりあい	- 14 -
3-3 中学生・高校生と子ども（未就学児～小学生）とのかかわりあい	- 15 -
3-4 公民館情報の伝達方法	- 15 -
4、結びにかえて	- 15 -
5、資料編	- 16 -
5-1 諮問書	- 16 -
5-2 運営審議会委員名簿	- 17 -

1、はじめに

1-1 諮問内容－「検討を要する事項」

地域の教育力を育む施設としての公民館の役割（あるべき姿）

- 1) 子ども（未就学児～小学生）の居場所
- 2) 子ども（未就学児～小学生）と地域の大人とのかかわりあい
- 3) 中学生・高校生と子ども（未就学児～小学生）とのかかわりあい

1-2 テーマ選定の背景

平成20年中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」では、公民館は地域の社会教育の拠点として、積極的に活用される必要があるとされており、地域における課題等に関する学習活動としての場や子どもたちの学校外の居場所、自主的な学習の場、家庭教育支援の場として、その機能を充実させることが求められています。本市の教育基本計画においても、施策の目標として、大人が教育者としての役割と責任に気づき、子どもたちが地域の中で育まれる社会教育を推進するとしています。

「子どもとのかかわり」において、公民館としてどのような方策で地域の教育力を向上させられるか、考察が必要な時期に来ています。

以上のことから、上記の「検討を要する事項」について諮問がありました。

1-3 香川公民館を取り巻く現状と課題

茅ヶ崎市教育基本計画「第4次実施計画（2018年度～2020年度）」の施策で、社会教育に関して、下記の2点が重点施策としてあげられている。

重点施策2：地域の教育力の向上

重点施策3：家庭教育・幼児期の教育の支援

さらに、これらの重点施策を受けて施策として下記を掲げている。

政策2：学びあい響きあう社会教育の充実

施策5：大人と子どもがともに育ちあう社会教育の推進

施策6：自立への意欲と夢をはぐくむ青少年の育成

施策7：郷土に学び未来を拓く学習環境の整備

これらの施策を受けて、公民館の役割として「地域の課題解決に向けた事業」を推進するために湘北地区の市民の現状認識を把握することにした。

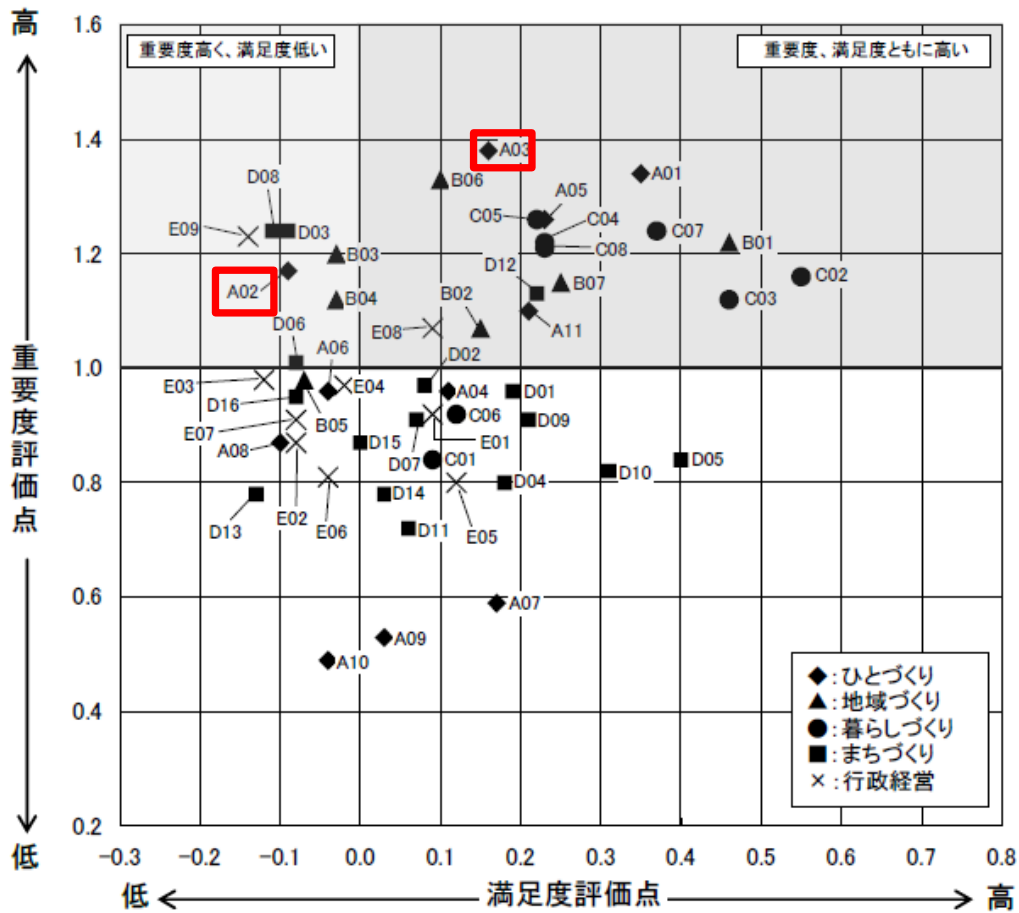
「平成29年度茅ヶ崎市のまちづくり市民満足度調査結果報告書」から北部地域の課題について結果を分析すると、下図のように、市民の重要度が高く、満足度が低い項目について抽出すると、

A03；子供たちの生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）をはぐくむ学校・家庭・地域の教育力

A02；多様なニーズに合わせた保育サービス

の2点が課題として認識できた。これらは諮問内容と一致することからこれらも意識しながら課題解決に向けて答申案を検討することで進めていくことにした。

<北部地域 重要度と満足度の評価図>



1-4 答申作成のプロセス

平成30年5月15日 平成30年度第1回香川公民館運営審議会

- ・・・香川公民館館長より諮問がなされ、現状と課題について議論
- ➡現在どんな状況であるのか、どんな取組みがあるのか、等を議論

平成30年7月31日 平成30年度第2回香川公民館運営審議会

- ・・・あるべき姿を議論
- ➡どういったニーズがあるのか、どういう状態が良いのか、等を議論

平成30年12月12日 平成30年度第3回香川公民館運営審議会

- ・・・施策の検討
- ➡具体的に公民館では、どんな取組みを行った方がよいのか等の議論

平成31年3月22日 平成30年度第4回香川公民館運営審議会

- ・・・答申の確認
- ➡最終的な確認

1-5 答申書の概要

地域の教育力を育む施設としての公民館の役割（あるべき姿）を、1-1項の諮問内容（検討を要する事項）の3項目別に分類・提言し、さらに公民館の情報発信に関しても項目として追加して下記の4項目について提言した。

具体的な提言内容は、第3章に下記の項目別に記載した。

- 1) 「子ども（未就学児～小学生）の居場所」、
 - A. **【学習支援などの場の提供と、学習をサポートする人達の育成】**
 - B. **【放課後や休日など子供が集まっている場を居場所として働きかける】**
 - C. **【子育て世代に対するフリースペースの提供】**
 - D. **【子育てに関する情報発信の基地】**

- 2) 「子ども（未就学児～小学生）と地域の大人とのかかわりあい」
 - E. **【地域文化を多世代が共に学ぶ】**
 - F. **【子育て世代に対する周囲、近所、年配者からの緊急時の子供預かりなどの支援】**

- 3) 「中学生・高校生と子ども（未就学児～小学生）とのかかわりあい」
 - G. **【中高大生のクラブ活動の発表の場を提供し、子供たちにも指導してもらう】**
 - H. **【中高大学生が職業体験（ボランティア）を通して公民館と関わる機会を作る】**

- 4) 「公民館情報の伝達方法」
 - I. **【情報発信の方法】**
 - J. **【若者への情報発信の手段】** 第60回神奈川県公民館大会－基調講演－から

提言をまとめるにあたり、第1回から3回までの委員会での諮問内容に関する各委員からの発言内容を整理し上記の項目に分類し、2-1項に「公民館運営審議委員からの主な意見、課題、提言」として記載した。

また、公民館を利用している市民からの意見として、2-2項に「りよこんだより」の「子育て世代・シニア世代のつぶやき」欄への投稿意見から諮問内容に関連する内容を抽出して、上記の項目に分類して記載した。

さらには、平成30年度に実施した公民館事業に参加された方のアンケートから、今後実施してほしい

内容をニーズとして、2-3項に「公民館事業でのアンケート：「自由広場」、その他の事業でのニーズの把握」として記載し、3章で上記の項目別に具体的なニーズとして分類して提言した。

公民館の本来の機能である、多世代が気軽に集まり、年齢に関係なく交流し、お互いに困っていたら助け合うという場を作り、多世代が協力しながら学び合い、子供達もその中でいろんな世代と交流しながら人間形成されていく場所として公民館が機能できればと期待します。

2. 公民館と子どもを取り巻く現状と問題点

公民館での子どもに対する関わり方について、現状の問題点、要望、提案などの意見を抽出するために下記の内容で抽出し、同じような意見をグルーピングして整理した。

- 1) 公民館運営審議委員からの現状や課題、提言について意見
- 2) 「りよこんだより」の「子育て世代・シニア世代のつぶやきへの利用者からの投稿意見
- 3) サークル活動に参加の子供達や両親からのアンケートでの要望など

2-1 公民館運営審議委員からの主な意見（議事録からの抜粋）

第1回から第3回までの委員会で諮問内容に関してフリーディスカッションを行い、各委員からの意見を項目別にグルーピング・整理し、公民館の機能としてどのような内容に取り組むべきかまとめた。

【学習支援の場の提供】

- ・フリースクールじゃないですけどもそういうのも広がりつつある。いろんな団体が児童の学習支援をボランティアで行っている団体がたくさんある。
- ・鶴嶺公民館が今年度学習支援を始める。
- ・公民館の近くに、ある人が子供だけを集めた遊び場所とかそういう行事をやっているところがある。たんぼぼハウス、伸びしろクラブみたいなのところか、ニーズがあるからやっている。
- ・鶴が台の推進協でも発表されるんですけども、推進協のメンバーの方が、ここでボランティアをなさっていてやはり教える側の人数が圧倒的に足りないと。募集をかけるのだけれども、なかなか集まらないというところが問題だそうです。理想としては1人ずつ見てあげたいけれども、それは出来なくてという状態が続いています。というような報告がありました。
- ・伸びしろクラブの方から、話があって見に行くと、最初は3年生とか3年生くらいの子が多かったらしいけれども、少しずつ子どもどもたちの間でも口コミで広がっていったり、自治会の回覧板でもまわったりして、徐々に増えていって今は、高学年で自分の学習があれだからと思う子が増えてきて、来てくれるようになっていたとのことでした。去年より人数増えたんですけども、やはり指導者が足りないと言ってました。
- ・小学生の5年の息子がいるのですがたまたま算数とかやってもこういう学び方なんだと自分が習ったものと違う方法もあって教えられないなというのもあり、教える人も結構知識がいるかも知れません。
- ・ここに通う子どもたちの背景なんですけど、塾にも行かずに自力でなんとかしなくてはいけないけれども、自力では限界があるという子もいて、そうすると受験にはものすごく不利になってしまうという子もいると思いますが、そこをなんとか学習支援することですね。
- ・こども応援丸というのは、今おっしゃられた背景、そういうお子さんたちを対象としています。鶴嶺公民館のほうも小学校で塾に行っていない子だけとしております。
- ・そうすると対象とする子でレベルが違いますね。例えばこれができないから重点的にやるとか、中学校に入ったけれども小学校の勉強がわからないからそこからスタートしたいとか、内容が

変わってレベルがいろいろ変りますね。提言の内容としてはそういうものを加味してそういう指導者の養成講座をやるとか、人を集めるときにそういうようなある程度テリトリーを明確にして集めるとか。レベルは中学校の宿題ぐらいまでなどといったように明確にしたほうがいいですね。

【地域の教育力をサポートする人達を育成】

- ・学び直しができるといいなと思う。社会に出てみて知識が必要なんだと認識されて学びなおせる講座があってもいいのではないかな。そこで学びの出会いがあるのではないかな。
- ・寺子屋開きたいなという人たちのための講座。その人たちが公民館で学んで地域に還元する。
- ・学習支援をするならば、学年を区切ってやるというのもいいかもしれないですね。算数の九九をちょっと遊びながらやろうよとかだったら、支援にもなるし一緒にやる人自身も楽しみながらやれるんじゃないかなと思います。中学の英語とかだと海外に出た方など意外といらっしゃるじゃないですか、出張で行っているとか、昔海外赴任していたとか、そういう方がいらっしゃいますので、そういう方々は教えられると思います。全般的にやりましようとなると、すごく大きい学習支援になって難しいかもしれません。こういうことをやりたいのだけど、という形で指導者を募集かければ集まるかもしれないです。
- ・ある程度テリトリーを決めて具体的にこういうことができる指導者をボランティア募集するようにする。
- ・寺子屋開きたい、ボランティアしたいなど、やりたい人もいっぱいいらっしゃるかなと思います。それを支援する立場を組織する役割もあるといいかなと思います。サークルみたいな形でできればいいかもしれません。

【地域文化を多世代が共に学ぶ】

- ・茅ヶ崎カルタで茅ヶ崎のことを知りつつ遊ぶという形で広げられたら。
- ・茅ヶ崎カルタは幼稚園でも年少さんからカルタ遊びをやっている。
- ・地域といろいろなことを通して結びついていけたら素晴らしいと思う。
- ・茅ヶ崎カルタで地域的なことも学んでいくと子供たちは大人と同じものを習っているんで世代を超えて話が合うのではないかな。
- ・茅ヶ崎カルタは青少年指導員で最初に紹介されて地域に持ち帰ろうということでプラザに置いて活動してきました。

【中高大生のクラブ活動の発表の場を提供し、子供たちにも指導してもらおう】

- ・中学生が積極的にダンスを披露するとか今あるそうなので、小さい子、小学生でも身近なお兄さん、お姉さん、中学生なんかには教えてもらったりすると親しみやすくてできる。
- ・中高生が講師になってできればいいかな。
- ・ダンスも魅力的だと思う。中学生、高校生とかすごくダンスに夢中になっている方が多くて発表する場所というのをすごく求めている気がします。香川小学校でもダンスありますよね。ダンスをやる子が増えている。中高生などが小学生とか小さい子に教えてユニットを組み発表する場所

があるというのも面白いのではないか。

- **将棋**も今ブームなのではないか。
- **絵画**なども壊しそうな建物の壁とかに自由に絵を描く。高校とか中学の美術部とかにそういうところを依頼して書いているのを見ると小学生も描きたいとなるのではないか。参加するだけでなく共同で何か作り上げていったものが発表されるのがあると子供たちもどんどん参加してくるのではないか。
- **音楽**をやっている子もいると思うがその発表の場がなく、そのような場を提供すれば小学生、中学生とか小さな子供たちもできるのではないか。
- 和室があるので高校とか大学で落語をやっている人を呼んで子供たちに聞かせる。幼稚園でやると子供は本当にはまって寿限無を覚える子がいる。発表の場にもなって友達、親も来る。音楽もダンスも。そういう場所を提供していることを積極的に中高大学生にお話ししていく。
- 3月のこどもまつりで、カルタの大会とか発表の場を子供たちが何か希望してこういう場所があったらこれができるのにという具体的なもの発表する。
- アンケートを見るとダンスを習いたいなどが結構ありました。それで高校生大学生に来てもらって教えてもらうというのはいいですね。そうすることで近隣の中学生、今の中学生は小学校の時には公民館に来ていたっていう子も多いと思うので、だんだん歳を重ねることで自分たちの活動が忙しくなって、活動の場が公民館ではなくなっている事がありますので、また呼び戻すというわけではないですが、先生という立場になって公民館にまた来てもらうというのも1つかもかもしれません。
- 中学校なり高校なりに、巻き込みたいと思います。小学校は高校などつながりがあるのですか。
- 高校はないです。中学ではダンスクラブは部活動ではこの学区内ではないです。小学生も香川小学校ではダンスクラブがあり、その子たちはちょうど土曜参観の日に昼休みにクラブ活動でやっているダンスを発表しています。なかなかクラブという時間が学校の教育課程の中では取りにくくなっているので、そこまでもっていくのがやっとくらいです。3月に子ども祭りがありますが、そのタイミングでというのもあるかもしれないです。やりたい人いますかという話をもっていか、発表の場としてはそこを使おうという1つ案が出るかもしれないですね。ただ学校の休みのときに連れて行くと、ダンスの担当の先生が一緒に行かなきゃいけないというのあって、そこがすごく難しいですね。高校生くらいであれば全然教えてくれますしすごくいいなと思います。中学校の部活見学に行く時も、6年生に体験みたいな形で教えてくれたりします。中学生だったら十分に体験をさせてくれたりできるので、中学は鶴が台中学校では卓球部盛んじゃないですか。卓球はもしかしたら土曜日とか日曜日とか大会がなければ、そういう時に卓球体験の場を設けたいんだけど一緒にやってくれるみたいなのはできるかもしれません。

【中高大学生が職業体験（ボランティア）を通して公民館と関わる機会を作る】

- 難しいのは中学生高校生とどういふふうにかかわっていくか、一番忙しい時期の子たちなので**ボランティアのクラブ**とか高校にもあるのでそういうところから協力いただくとか。
- 高校生は参加ではなくて運営にかかわる形になるかなと思います。ボランティア部がどこにでもあるので、JRC,赤十字関係のジュニアレッドクラスというのがあるんですね。

- ・幼稚園では**職業体験**で高校生を受け入れている。男の子も積極的に子供の世話をしたいというのがあって子供たちにも人気なのでそういう機会を設けてあげるとやってくれるのではないかと。
- ・中高生との関わりあいでは毎年鶴が台中学の生徒さんに職場体験に来てもらっている。去年は家族介護教室。
- ・**大学生のインターンシップ**で受け入れている。が夏休みは自由広場をやっていて事業が少ないので難しい。
- ・大学生のインターンシップ。5館を回って主催事業を見学、公民館事業の提案学校の先生が来られることもある。
- ・多世代が関わるとなるとやっぱり**公民館まつり**とかになります。きっかけを作らないと始まっていかないので。
- ・アメリカではボランティアをやることによって楽しみもあるし、単位も取れるとかそういうようなシステムがあったりするかもしれませんが、日本の場合まだボランティアということが根付いてないのかもしれませんが。そういうところがあるので難しいところではあるのかと思いますが、そういったところで中学校とか高校とか、そういうところに働きかけてもうちょっとボランティア精神というか、協力しながら子どもたちにもそういう精神を学んでもらうではいかがですかみたいな感じの、体験会みたいなのをやってみて子どもたちにも成長の場にもなるよねという形でつなげていくと良いように思います。
- ・職業体験で中学生がきますが、その子たちにこの時間で折り紙の先生をやってもらおうとか、何かそのところでこれを教えてあげるからちょっとやってくれるみたいな、体験を職業体験の時に組み込んでみる。子どもたちってそれで公民館に足が向いたりすることもあるかなと思います。学校にも中学生が各校から10人くらい来てくれたのですけれども、学校の先生のいろいろなのがわかって良かったという感じで、またきたいなと言っていた。平日は来れないというのがありますが公民館だったら休みの日とかに足が向くかなと。あえてそういう中学生に活躍してもらおうような時間を作るとかはあるかもしれません。
- ・ボランティアは、公民館まつりのときはいわばいわれるままにお手伝いするという形ですが、今度は自分たちが先生となってやるということですね。自分たちでこういうことをやってみたいと。
- ・打ち合わせ会の時に、何か考えておいて、とあらかじめ提示しておいて、中学の総合の時間の中で職業体験のところを計画していると思うので、その中で何があるか考えて相談しておいてもらって、当日自分たちはこれやるという感じでやってくれば、小学生ぐらいだったらこれがいいかなとか自分たちで考えて、つながっていくのかもしれませんが。

【放課後や休日など子供が集まっている場を居場所として働きかける】

- ・鶴が台では地域の方が子供の居場所作りが必要ということで月に一回夕方に開いている。鶴が台で第3金曜日5時から誰でも参加できる居場所作りを行っている。カレー、コーヒ、ゲーム、勉強。
- ・公民館では放課後に子供たちがたくさん来て、ここが子供たちにとって必要な場所だなというのは来るたびに感じる。そこに大人としてどう描かれるのかというのは考える必要がある。

- ・子供だけでなく、そこにお年寄りとかご高齢のかたも一緒にいられる場所とか、そういうところで何か新しいものを教えてもらおうとかそうやってつながっていけるといいかなと思います。
- ・ロビー（フリースペース）に毎日子供たちがきている。カードゲーム、DS。時々茅ヶ崎カルタを借りにくる。
- ・居場所は本人がここだと思えばそこ（公民館）が居場所になる。
- ・いろいろな交流の場、ゲームをしたり、大人が来たり、唯一いろんな人が来て関われる場、そういうものができる場所ではないか。
- ・夏休みの自由広場、大人と子供が交流できる場ができています。
- ・公民館に来ているが約束した子供同士だけの関わりになっている。カードゲームをやっている。
- ・集まっている時がチャンスで何か仕掛けられるではないか。
- ・主催事業もあるが、集まっているところにうまくこちらから仕掛けられたら、うまく関わっているチャンスがある。
- ・公民館に来ている子供たちに公民館ってどういうところなのか意見を聞く。
- ・普段の学習の場でも放課後何人か集まって勉強したいなと思っても今はマルエツの中でやっているのを見かけるが公民館でそういうスペースが少しあるだけで行けば何かできるとなる。
- ・ロビーにたくさんの子供たちがきていて、ほんとにあの時間しか自分たちが好きなことをやる時間がないのかなと思う。ちょっとした時間でも仲間と一緒に集まりたいのだと思う。がその中で、ゲームだけでない面白さがあるよと気付く面白い機会になるかなと思う。
- ・部活が終わってほんとにゆっくりできる時間にゲームなどをして息抜きになっている場所でもある。
- ・夏休みのお話会で朝からお弁当持ってきてお話会が終わってもそのまま残って帰らない子がいる。夏休みにお弁当持ってきて公民館で食べて過ごして帰る子もいる。涼しくて雨風しのげる場所を提供。
- ・青少年会館のように空いている部屋があればもしお勉強したいとかに静かに使える場所を提供しますとかがあればいいのではないかな。
- ・月一回程度でいいから、ダンスができるよ、とか将棋を教えてくれるよとか開放できるかと思う。勉強とかも宿題など良いかと思う。
- ・ただ、子供がたくさん来るのは良いが、何でもかんでも許してしまうといけなかなと思います。どこかで大人が見守っているのがいいかと思います。
- ・カードのポイント集めが好きなので、来たらスタンプ何個とかできたらスタンプ何個、挨拶できたら1個とか、100個たまったら何か上げるとか、公民館マスターみたいな称号を与える、プレゼント（図書館の雑誌のおまけ）するなど。
- ・放課後、子供たちが集まっている時に何か仕掛ける、英会話、プログラミング、ボードゲーム
- ・室内の広場のようなところがあっても良い。ここに行けば安心かなというスペースがあれば親としても安心。自由に飲食できる場所。
- ・小学校の3年生が施設見学に来て公民館をぐるっと回って説明しみんなも来てもいいよっていうのお知らせをしています。どっか遊びに行く場所がなかったら図書館や公民館に来てもいいよと。ロビーでおもちゃで遊べるし、本も読めるし、いつでも来てもいいよと、案内しています。後は

主催事業があればそれに来てねということが出来ます。あとは働きかけるときにも子どものボランティアをいかにして増やしていくかっていうのが課題になると思います。先程の学習支援のように。

- ・4月と比べてカードゲームをやっている子たちが減ってきた感じでブームが過ぎ去ったのかもしれませんが。代わりに雑木林に行ったり、オセロや折り紙で遊んでいる子も増えてきた感じがします。あとは一時より子どもたちが少なくなっている気もします。
- ・外遊びしている子が多いかと最近思います。鶴が台は公園が多いので、以前より増えているかなと思います。
- ・4月にクラス替えがあるじゃないですか、その時はそんなに群れてできないかもしれないのですが、ある程度、運動会とか大きな行事を経てみんなと声掛け合って遊べるようになって外で遊ぶという時期かもしれませんね。それが出てきたのかなというのがありますね。

【情報発信の方法】

- ・何か行事の時に話しかけるのであればいい。
情報発信では Facebook を始めて講座の様子などを発信していく。
発信の仕方なんかはキャッチしやすいような事業の紹介をするといいのではないかと。
Facebook は始めている。
- ・子育てサークルに入っていますが、知った切欠は知人を通してでした。もっと広報などでも広く子育てサークルのことを知っていただけたらいいなと思いました。
- ・子供のころから公民館ってこういう場所だということを教えてあげる必要があるのではないかと。
- ・自由広場で近隣に声をかけていく。
- ・香川小と鶴が台小の3年生が見学にこられた。公民館は何をやっているのか知らないっていう子がまだいる。
- ・第60回神奈川県公民館大会ー基調講演ーから、若者が公民館に足を向けるようになるには下記のような検討が必要である。
- ・10～30代の情報収集に利用するSNSネットはツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどであり、これらを使った情報発信が必要である。
- ・若者の公民館に対する認識は、何か用事がなければ行ってはいけない場所と捉えており、それを払拭するには、
→お金をかけないで友達と一緒にだべっていられる場所、スマホの充電ができたり、無料でWi-Fiが使えるような環境にして、そういう場所であることを発信する必要がある。

2-2 「りよこんだより」の「子育て世代・シニア世代のつづやき」への投稿意見

上記の投稿欄に記載されている内容で、主に子育て世代や子育てを経験した世代からの子育てを支援するために公民館としてどのような機能があれば良いのか、意見や要望をまとめた。

【子育て世代に対する緊急時の子供預かり】

- ・急な用事や急病の時に子供を預けられる手段がありません。ファミサポも緊急時の対応がで

きない場合がある。他にももっと子供を預けられる施設などがあると助かる。

- ・要望もあるかと思うんですけども、緊急時の子ども預かりというふうになってしまうと、ここまで公民館がやるべきことなのかなという気がします。
- ・預かりあえるような関係性を作るとか、それを支援するなど、みんなで集まっているところで、誰かが見ているとかですね。
- ・子どもの預け場所がないから会議に出れないなどという人もいて、それが切実な問題だと思うんですけども、以前は世話人の人が出るときに別の人がお子さんを預かるよというようなこともあって、サークルの中で間に合うような関係もあったが、今はそれができなくなってきたこともあると思います。
- ・誰かが公民館に来て子どもを遊ばせて見てるからその間に会議に出てきてとか、そういう関係性ができればいいと思います。

【子育て世代に対する周囲、近所、年配者からの支援】

- ・子育て中のお父さんお母さんにとって、周囲の方々からの暖かいお言葉はうれしい。
- ・昔に、比べて、子供を預ける場所、遊ぶ場所がたくさんあり親にとっても子供にとっても育児がしやすくなっている反面、祖父、祖母、家族との関りが少なくなっていると感じ、寂しく思います。
- ・子育ては初めてのことばかりで、お父さんお母さんだけではどうにもならない時もあります。そんな時に助けてもらえると本当にありがたいですね。おじいちゃん、おばちゃんが近くにいない場合も、ご近所の方々や地域の施設など、色々な方々のお力を借りて、お互いに助け合いながら、楽しく育児ができると良いですね。
- ・公民館は”子育て”にとって支援、そして育ちの場としてとても大事な役割があると思っています。
- ・地域の顔見知りや、気軽に声を掛け合う関係が作りづらい今だからこそ、子育てに悩むお母さんたちに向けて集まる場の提供、支援はこれからも必要だと思います。また、そこで誰かの力を借りて、いろんな人と共に育ちあうことの大切さに気付いた人達が、今度は”自分達で”作り上げていくための支援についても社会教育の場である公民館が力を発揮できるのでは、と考えます。色々なサークルを立ち上げ、活動している幅広い世代の人達との交流を通して、母と子、大人がずっと成長していける場所ではないかと思います。
- ・今思うと、取り越し苦労の多い子育てだったと思います。一人じゃなくて周りの人に相談や楽しいことを親子で経験していってくださると嬉しいです。
- ・お父さんやお母さんの働き方や生活の変化によって子供との関り方も変わっていると感じました。その違いも頭に入れて、また、おじいちゃんおばあちゃんの体調も考えて、すべての世代がお互いに思いやりと感謝の気持ちを持つことが大事だと思いました。
- ・公民館に集まって活動している若いお母さんたちを見ていると、母も子も集団になって子育てをしていくことの大切さを改めて感じます。昔のように路地で子供たちが遊んでいるのを地域の人が見守っている環境が減ってきた中、自分たちで結びつきを作って力をあわせていくサークルさんすごいですね。地域のおばさんとして何か力になればいいなと思っています。

- ・元気になる子育て講座というのを企画していて、ピラティスと保育士の話を聞くというのですが、今度2月にあります。そこにはお母さん方だけではなく、高齢者の世代の人も呼んで、昔はこうだったけど今はこうとか、そういう交流も考えた講座を予定しています。

【子育て世代に対するフリースペースの提供】

- ・かめさんのおうちをよく利用しています。のんびり、ゆったりしたフリースペースで利用しやすいです。このようなフリースペースや乳幼児が気軽に遊びに行ける機会を設けてもらえると嬉しいです。
- ・子育てに不安な気持ちがあるので悩みながら仲間に相談したり、夫婦で話し合ったりしながら子育てするのだと思います。それが過剰なストレスになることもあります。解消法として、適度な息抜き、それはホッとする方法（仲間とおしゃべり、コーヒタイム、または夫婦だけのリラックスタイムなど）を持つことだと思います。
- ・雨の日や、子供がまだねんねの赤ちゃんの時などに公民館に気軽に寄れる場所が欲しい。
- ・子育て支援センターや地域の子育てサロンなどがあり、小さな子供と何をしようかと困っている頃、とても助かりました。曜日や時間に関わらず、いつ行っても誰か遊んでいるような、室内の広場のような場所が公民館になど誰でも集まりやすい場所にあるともっと外に出て行きやすいと思いました。
- ・公共の支援機関を上手に利用し、無理しすぎないような子育てをし、余裕を持って楽しめると思います。
- ・ロビーであればいつでも使えます。またかめさんのお家というフリースペースもやっています。

【子育てに関する情報発信の基地】

- ・幼稚園の合同説明会があるとうれしい。
- ・ささいな疑問や幼稚園の情報などを聞いたり、得たりする場所が公民館にあるとうれしい。
- ・育児サロンとか学習支援とか居場所をやってる人がいるよという公民館でカバーしきれない情報も公民館に来れば教えてもらえるというのがあればよい。
- ・公民館にくれば相談に乗ってもらえる➡社会教育主事を公民館コンシェルジュと名付けたいと考えている。
- ・子育て世代に対する情報の発信はまだですが、香川駅前に子育て支援センターというのがありますので、そちらに情報集まってると思います。公民館にもそちらのチラシなどを置いてありますので、そういう意味での情報発信はしています。
- ・公民館でプロジェクターで富士見丘幼稚園さんの作品を投影してます。幼稚園のプログラミングでデジタル絵本アワードのキッズ賞に入賞した。近隣の情報発信をしている。また来ていただければいいです。

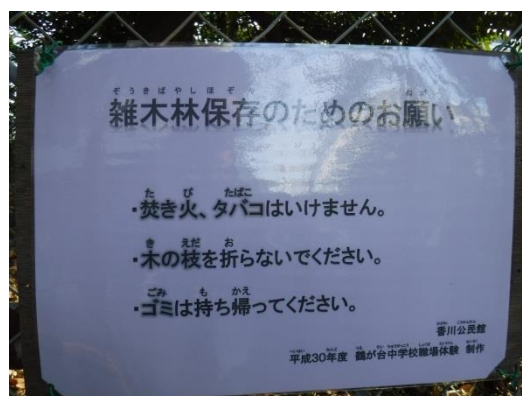
2-3 公民館事業でのアンケート：「夏休み自由広場」、その他の事業でのニーズの把握

H30年度に実施した下記の各事業の参加者からのアンケートで「今後やってほしい内容」について回答されたものをニーズとして抽出した。

- ・なわとび教室： ダンス教室、折り紙の折り方、鉄棒（逆上がり）、体を動かすもの。
- ・ボール運動教室：
 - マラソン、藍染め、ろうけつ染め、てつう、マット運動、ジャングルジムなど登る系、かけっこ教室、テニスや卓球、バトミントン、種々スポーツを体験したい
- ・スマイリングままサロン：
 - 離乳食作ってみよう、料理教室（こども、赤ちゃん）、手遊び教室、ママ向けの運動、軽めの運動、体操・ヨガ・ピラティス、子連れOK ヨガ、小さい子が母子で楽しめる、子育て中でも参加できるイベント、かざあみなどのワークショップ、フリーマーケット、子供の算数や国語のお勉強教室、気軽に参加できるもの、赤ちゃん連れ、託児付きのもの
- ・ズンバでダイエット：
 - 落語会、ワークショップ（リース作りなど手作り教室）、ベリーダンス、耳つぼマッサージ、ダンス系、ヨガ、ダイエット運動、部屋いっぱいのお絵かき、園児や小学生と一緒に参加できるイベント（料理、工作など）
- ・プログラミング講座：
 - 将棋大会、スクラッチでゲームする講座、平日でミニ版の講座、発明講座、ひかり講座、じんたい講座、種々のプログラミング、科学系の講座、ハーバリウム教室、料理教室（託児付き）、簡単なマリオを作る、テニス
- ・ユニバーサルスポーツ交流会：
 - 高校生：スポーツ、たくさんの人が参加できるもの、中・高生と障害を持つ方との交流、
 - 中学生：体力づくりやダンスなど運動系、手話関連
 - 小学生：工作、ユニバーサルスポーツ、ボラ
- ・公民館 PR ブース：
 - 頭を使って自分で考えることができるイベント、工作、学校の勉強の手伝い、水遊び、ものづくり、工作、学校で使えるマル秘道具、工場見学、ハーバリウム、縫い物、エコでリサイクルを意識したもの、自然体験、親子でパン作り、月曜日の開館（夏休みだけでも）、安心安全で楽しくできるもの、親子クッキング、児童館的なもの、預かり保育、親子体験できるもの、音楽系のイベント
- ・公民館は学びの場だけど、まずは何かに参加してもらうことから始める。



茅ヶ崎カルタ。香川公民館で貸出しを行っている。



鶴が台中学校の職場体験の受け入れ、作成してもらった看板

3、地域の教育力を向上させるために今後の公民館のあり方（提言）

地域の教育力を向上させるに公民館のあるべき姿として、2章の現状・問題点・要望、主催事業のアンケートなどから取り組むべき機能、方向について整理した内容を、1章の地域の教育力を向上させるための諮問の3項目別に分類した。また、4項目目として情報の発信についても追加した。

3-1 子ども（未就学児～小学生）の居場所

A. 【学習支援などの場の提供と、学習をサポートする人達の育成】

学習支援をする団体は複数あり、子どもたちの数も増えているが、教えるボランティアが少ないため、学習支援の場を増やす、またそのボランティアを育成すると良いのではないかと。小中学生のときの自分が習っていた内容をすべて教えるのは難しいという人もいますので、ボランティアを募集する際は、ある程度教える領域を絞りこんで募集する。

B. 【放課後や休日など子供が集まっている場を居場所として働きかける】

香川公民館では現在も平日の放課後にロビーでカードゲームなどをして子どもたちが集まって遊んでいる。そうした子どもたちに様々な遊びや学習をしかけていくことができるのではないかと。子どもたちは、ゲームだけではない面白さに気づく。また、空いている部屋を卓球や勉強する部屋として開放すれば子どもがくるのではないかと。

C. 【子育て世代に対するフリースペースの提供】

子育て世代が自由に使える場（フリースペース）の提供があり、のんびり、ゆったり、仲間とおしゃべり、コーヒタイムができると子育て世代も使いやすい。

D. 【子育てに関する情報発信の基地】

幼稚園の情報など子育ての情報が公民館にもあり、相談もできると良い。

3-2 子ども（未就学児～小学生）と地域の大人とのかかわりあい

E. 【地域文化を多世代が共に学ぶ】

茅ヶ崎カルタなど大人と子どもがともに学べるものがあると多世代でコミュニケーションがとりやすい。参加するだけでなく、一緒になにかをつくりあげていくものであると交流しやすいのではないかと。

F. 【子育て世代に対する周囲、近所、年配者からの緊急時の子供預かりなどの支援】

近所の方々や地域の施設など、いろいろの方々のお力を借りて、お互いに助け合いながら楽しく育児ができると良い。子どもの預かりなどでお互いに支えあう場作りができると良いのではないかと。

3-3 中学生・高校生と子ども（未就学児～小学生）とのかかわりあい

G. 【中高大生のクラブ活動の発表の場を提供し、子どもたちにも指導してもらう】

近隣の中学生は小学校の時には公民館に来ていた子どもも多い。中高生が部活などの成果を発表する場所を提供し、小学生にも教えるような環境があればよいのではないか。

H. 【中高大生が職業体験（ボランティア）を通して公民館と関わる機会を作る】

中高大生が公民館でボランティアや職業体験をする機会を設けボランティア精神を持ってもらうような学習機会を提供してはどうか。また、公民館まつりでは現在中学生のボランティアが模擬店などを手伝っているが、中学生が出店するブースなどがあってもよい。

3-4 公民館情報の伝達方法

I. 【情報発信の方法】

引っ越したときに公民館の存在を知らなかったので、転入時などに知れると良い。また、幼稚園や小学校の見学を積極的に受け入れるなど、子どものときから公民館について学ぶことができると良いのではないか。

J. 【若者への情報発信の手段】 第60回神奈川県公民館大会－基調講演－から

10～30代はツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどでの情報収集している。若者が公民館に寄るにはそのような媒体を使った広報が良いのではないか。

4、結びにかえて

今回の諮問テーマをいただき、社会教育の一環として、子供達（未就学児含む）の育成を地域の教育力ということで取り上げるようになった。地域の教育力については学校、社協、推進協、自治会、家庭などいろんな組織体での方法が考えられますが、公民館として、どのような事業を目指していけば良いか、提言しました。

提言した内容を見てみると、公民館の本来の機能である、地域のいろんな世代の人達が気軽に集まり、年齢に関係なく交流し、お互いに困っていたら助け合うという場を作りその中で子供たちが見守られながら育つという当たり前の状況を提言した感があります。が、これまではそれが十分ではなかったという裏返しでもあり、今後は公民館が、多世代がお互いに協力しながら学び、子供達もいろんな世代と交流してその中で人間形成されていく場所として機能できればと期待します。

(香川公民館運営審議会会長 山地 廣)

5、資料編

5-1 諮問書

平成30年5月15日

香川公民館運営審議会
会長 山地 廣 様

茅ヶ崎市立香川公民館
館長 関 健次

茅ヶ崎市立香川公民館運営審議会に対する諮問について

社会教育法第29条第2項の規定に基づき、下記の事項に理由を添えて諮問します。

1 検討を要する事項

地域の教育力を育む施設としての公民館の役割（あるべき姿）

- 1) 子ども（未就学児～小学生）の居場所
- 2) 子ども（未就学児～小学生）と地域の大人とのかかわりあい
- 3) 中学生・高校生と子ども（未就学児～小学生）とのかかわりあい

2 理由

平成20年中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」では、公民館は地域の社会教育の拠点として、積極的に活用される必要があるとしており、地域における課題等に関する学習活動としての場や子どもたちの学校外の居場所、自主的な学習の場、家庭教育支援の場として、その機能を充実させることが求められています。本市の教育基本計画においても、施策の目標として、大人が教育者としての役割と責任に気づき、子どもたちが地域の中で育まれる社会教育を推進するとしています。

「子どもとのかかわり」において、公民館としてどのような方策で、地域の教育力を向上させられるか、考察が必要な時期にきています。

以上のことから、上記1の「検討を要する事項」について諮問しますので、よろしくご審議のうえ答申くださるようお願いいたします。

3 答申希望日 平成31年3月

5-2 運営審議会委員名簿

茅ヶ崎市立香川公民館運営審議会委員

任期2年（平成29年4月1日～平成31年3月31日）

氏名	推薦母体
東 いくみ あづま	香川小学校区青少年育成推進協議会 新任
大谷 紀子 おおたに のりこ	鶴が台学区青少年育成推進協議会 新任
山地 廣 やまじ ひろし	湘北地区自治会連合会 再任
長谷川 泉太郎 はせがわ せんたろう	湘北地区社会福祉協議会 再任
明石 香代 あかし かよ	香川公民館利用者懇談会 新任
鈴木 由香里 すずき ゆかり	茅ヶ崎幼稚園協会 新任
奥谷 みさ おくや	茅ヶ崎市小学校長会 香川小学校教頭 新任

地域の教育力を育む施設としての公民館の役割（あるべき姿）（答申）

平成31年3月

発行 茅ヶ崎市立香川公民館運営審議会

編集 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部社会教育課香川公民館

〒253-0082

神奈川県茅ヶ崎市香川一丁目十一番地一号

電話：0467-54-1681

E-mail：kou_kagawa@city.chigasaki.kanagawa.jp

H P：<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/kominkan/kagawa/index.html>